

教育学部 教育学科 学校教育コース（令和6年度以降入学生）履修系統図

「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程の編成】

教員は子どもの将来を担う重要な存在であることを学生が自覚し、卒業後、教育現場において、教科指導、生徒指導等の職務を担うことができる教員として必要な資質・能力を身に付け、生涯にわたって「学び続ける教員」になることを重要課題として教育課程を編成します。教育学科学校教育コースでは、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の各学校種の教員および養護教諭の養成を目的としたカリキュラム編成を行います。小学校の教員養成では、小学校教諭として必要な基礎的・専門的知識や技能の修得により、小学校教諭一種免許状を取得します。また、より深く、子どもや子どもを取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、幼稚園、中学校・高等学校（英語・数学・理科）、養護教諭、特別支援学校のいずれかの免許状取得により、専門的知識や技能を基に、校種間で生じる問題への対応や中高の学修を見通した専門的な学習指導など、現場の多様な課題に対応できる専門性の高い小学校教員の養成を目標にカリキュラムを編成します。中学校・高等学校の教員養成では、「英語」「数学」「理科」の中学校・高等学校教員免許状を取得します。また、生徒の成長過程や生徒を取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、隣接学校種として小学校教員免許状の取得により、現場にて幅広い課題に対応できる中学校教員・高等学校教員の養成を目標にカリキュラムを編成します。特別支援学校の教員養成では、小学校教員免許状の取得と合わせて、特別支援学校教員としての専門的知識や技能を学び、特別支援学校教諭免許状を取得します。様々な環境の中で成長・発達する児童・生徒の学習課題についての理解を深め、現場の課題に対応できる特別支援学校教員の養成を目標にカリキュラムを編成します。養護教諭の教員養成では、養護教諭としての専門的知識や技能の修得により、健全な成長・発達を支援する養護教諭免許状を取得します。さらに小学校教員免許状を取得し、様々な環境の中で成長・発達する児童・生徒についての理解を深め、子どものいのちと未来を護る養護教諭の育成を目標にカリキュラムを編成します。

【教育内容】

教育学科学校教育コースでは、ディプロマ・ポリシーに基づく教員としての専門的知識および実践力、指導力を備えた人材を育成するため、次の5領域『教職一般領域』『初等教育領域』『コース共通領域』『選修領域』『教育・子ども理解領域』として教育内容を構成します。

〈全校種の免許状取得において必要な基礎科目〉

- 1）教員としてのキャリア形成を行う科目として「学校教育入門」を配置します。教員をめざす学修の全体像を把握し、身につけたい専門性と未来の教師像を明確にします。
- 2）『教職一般領域』では、教育学の基礎理論や実践論等を学び、教職の意義や教員の役割などを理解する「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」「教職論」等の科目を配置します。

〈自己の学びを振り返り、問い直し、深め豊かにする科目〉

- 3）『コース共通領域』では、教育現場と大学での学びとの往還により、豊かな人間性と確かな実践力・指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップⅠ・Ⅱ」などの科目を配置します。また、担任制で実施する1年次の「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（共通教育科目）、2年次の「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」にてアカデミックスキルの基礎力を培い、3年次の「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次の「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」にて、同じゼミ担当教員が2年間継続して「卒業研究」などの指導を行います。

〈専門教育に関する科目〉

〔小学校選修〕〔英語選修〕〔数学選修〕〔理科選修〕〔保健教育選修〕〔特別支援教育選修〕の6選修について、免許状の取得に関わる学問領域の専門的知識や技能を習得します。

- 4）〔小学校選修〕では、小学校課程の教科教育に関する基礎理論や方法論等を学ぶため、各教科の「教科内容論」「初等教科教育法」などの科目を配置します。また、幼稚園免許取得に必要な科目や専門性を高める科目の履修も可能です。
- 5）〔英語選修〕〔数学選修〕〔理科選修〕では、中学・高等学校の教員養成に必要な科目として、修得する各教科に応じた「専門必修科目」、「専門選択科目」「教科教育法」などを配置します。
- 6）〔保健教育選修〕では、子どもの多様な健康課題について考え、健全な成長発達を支援するため、「学校保健」「解剖生理学」「学校看護学」など、養護教諭をめざす上で必要な専門的科目を配置します。
- 7）〔特別支援教育選修〕では、特別支援教諭をめざす上で必要な「特別支援教育概論」「知的障害教育論」などの専門的科目を配置します。また、特別支援学校教諭免許状の取得には、小学校教員免許状の取得が必要です。

〈変化する社会の中で生じる多様な教育課題に対峙するための関連科目〉

- 8）『教育・子ども理解領域』では、変化する社会、学校・保育施設等における現代的教育課題や多様な子どものニーズを理解し、成長と自己実現を支援するための子ども理解を深める科目として、「子ども理解と人権」「インクルーシブ教育の理論と方法」「ICTと教育データの活用論」「プログラミング教育」などの科目を配置します。

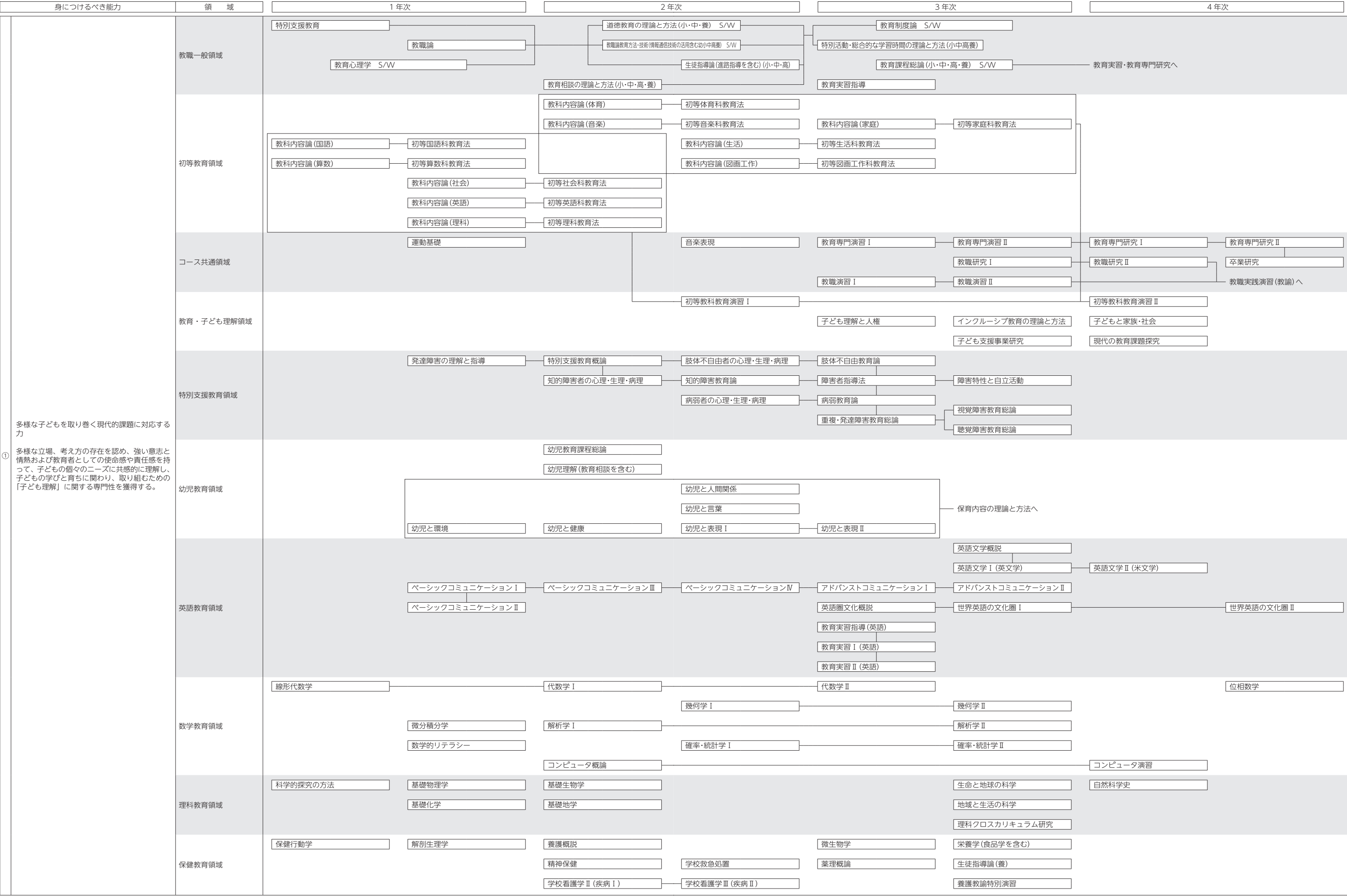
【教育方法】

- 1）主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追究に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、協働での学習活動や双方向的な授業を展開します。
- 2）公式や文法など単に覚えるのではなく、当たり前と思っていたことは“なぜ”そうになっているのか、“なぜ”それが必要なかを学生自身が理解を組み立て、掘み取っていけるように、学生個々が多様な方法や側面から“なぜ”にアプローチして考えを深めます。
- 3）情報化の進展に対応するため、ICT アクティブ・ラーニング教室、ICT 模擬授業教室、電子黒板、タブレット、インターネットや視聴覚機器等の活用を促進し、実践力の育成に向けた模擬授業の反復練習に取り入れるなど、学習方法の改善に努めます。
- 4）学校での実践的な学びを推進するため、1年次に「ハロースクール」、2年次に「インターンシップⅠ・Ⅱ」を経験した後、3年次の「教育実習」「養護実習」「インターンシップⅢ（選択）」に参加します。小学校・中学校・高等学校・特別支援学校での教育活動に積極的に関わり、学びを深めます。

【学修成果の評価方法】

- 1）教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2）定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。
- 3）評価の観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修の状況や課題追究の過程をパフォーマンス評価します。
- 4）授業・教育実習（小・中・高・特別支援）・養護実習・介護等体験などの課外活動を通して、教育者として必要な資質・能力や適性を評価します。
- 5）学修ポートフォリオ（目標・自己評価、教職履修カルテ等）および上記2）～4）等をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学習方法の改善を図る形成的アセスメントを推進します。

教育学部 教育学科 学校教育コース（令和6年度以降入学生）履修系統図①



教育学部 教育学科 学校教育コース（令和6年度以降入学生）履修系統図②③

身につけるべき能力		領 域	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
② 個別最適な学びと協働的な学びを実現する専門的な知識や技能と実践力を追究する力 教育の場において、子ども一人一人の興味・関心を引き出し、子どもの課題に応える「個別最適な学び」と、個の学びを小集団や全体の場で広げたり深めたりする「協働的な学び」を実現できる「教科・領域の専門性」と、ICT や教育方法を効果的に取り入れた「実践的指導力」を獲得する。	教職一般領域		教育原論 S/W		教育実習	
	コース共通領域			教育基礎演習Ⅰ	教育基礎演習Ⅱ	
			教育・ファシリテーション演習	インターンシップⅠ	インターンシップⅡ	
	教育・子ども理解領域			初等教科教育演習Ⅰ		初等教科教育演習Ⅱ
					ICTと教育データの活用論	学級経営の理論と方法
					プログラミング教育Ⅱ	
	特別支援教育領域			発達障害と教育方法	教育実習指導(特支)	
	幼児教育領域		保育内容総論	保育内容の理論と方法(環境)	保育内容の理論と方法(健康)	保育内容の理論と方法(人間関係)
					保育内容の理論と方法(言葉)	保育内容の理論と方法(表現活動・音楽)
						保育内容の理論と方法(表現活動・造形)
③ 変化する社会、学校等で活躍するための包括的な協働の力 急激に変化する環境の中で、すべての子どもの可能性を引き出すために、チームの一員として、多様な人々と協働で課題解決を図り、持続可能な解決を遂行する力や種々の活動を繋ぐ横断的なファシリテーション力を醸成する。	英語教育領域		中等英語科教育法Ⅰ	中等英語科教育法Ⅱ	中等英語科教育法Ⅲ	中等英語科教育法Ⅳ
					児童英語教育実践研究	
	数学教育領域				教育実習指導(数学)	中等教育数学演習
						数学特論
	理科教育領域		物理学Ⅰ		物理学Ⅱ	
			化学Ⅰ		化学Ⅱ	
				生物学Ⅰ	生物学Ⅱ	
				地学Ⅰ	地学Ⅱ	
					教育実習指導(理科)	
	保健教育領域		学校保健	衛生学	公衆衛生学(予防医学を含む)	
② 個別最適な学びと協働的な学びを実現する専門的な知識や技能と実践力を追究する力 教育の場において、子ども一人一人の興味・関心を引き出し、子どもの課題に応える「個別最適な学び」と、個の学びを小集団や全体の場で広げたり深めたりする「協働的な学び」を実現できる「教科・領域の専門性」と、ICT や教育方法を効果的に取り入れた「実践的指導力」を獲得する。	教職一般領域					教職実践演習(教諭)
	コース共通領域			プログラミング教育Ⅰ	インターンシップⅢ	
	教育・子ども理解領域		学校教育入門			
	特別支援教育領域				教育実習(特支)	障害者教育探究
						インクルーシブ教育の探究
	幼児教育領域		世界の幼児教育探究			
	英語教育領域		英語音声学	英語学概説	グローバル教育実践演習	英文法Ⅰ
				英語学特論Ⅰ(認知言語学)	英語学特論Ⅱ(英語教授法)	英文法Ⅱ
						第二言語習得論
	数学教育領域			子どもの発達と算数・数学	数学史と現代数学	自然や社会に潜む数学
③ 変化する社会、学校等で活躍するための包括的な協働の力 急激に変化する環境の中で、すべての子どもの可能性を引き出すために、チームの一員として、多様な人々と協働で課題解決を図り、持続可能な解決を遂行する力や種々の活動を繋ぐ横断的なファシリテーション力を醸成する。			中等数学科教育法Ⅰ	中等数学科教育法Ⅱ	中等数学科教育法Ⅲ	中等数学科教育法Ⅳ
					教育実習Ⅰ(数学)	
					教育実習Ⅱ(数学)	
	理科教育領域		物理学実験	化学実験		理科教材開発の理論と実践(物理・化学)
				生物学実験	教育実習Ⅰ(理科)	理科教材開発の理論と実践(生物・地学)
				地学実験	教育実習Ⅱ(理科)	
			中等理科教育法Ⅰ	中等理科教育法Ⅱ	中等理科教育法Ⅲ	中等理科教育法Ⅳ
	保健教育領域			健康相談	養護実習指導	臨床看護学演習
					養護実習	教職実践演習(養護教諭)

教育学部 教育学科 幼児教育保育コース（令和6年度以降入学生）履修系統図

【教育課程編成・実施の方針】（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程の編成、教育内容】

【教育課程の編成】保育者は子どもの将来を担う重要な存在であり、卒業後、保育・教育現場において、幼児の教育・保育の指導を行う職務を担うことができる保育者として必要な資質・能力を身に付け、「学び続ける保育者」になることを重要課題として教育課程を編成します。教育学科幼児教育保育コースでは、幼稚園・保育所・認定こども園等の各施設の保育者養成を目的としたカリキュラム編成を行います。

幼稚園教諭一種免許状・保育士資格・小学校教諭一種免許状の取得を基本的な考えとし、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成することを目標に編成をします。

【教育内容】教育学科幼児教育保育コースでは、ディプロマ・ポリシーに基づく保育者としての専門的知識および実践力、指導力を備え、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成するための教育課程を編成します。幼児教育・保育の基本である遊びを通した総合的な指導について修得するとともに、保護者と協働して子どもの発達を支援する専門性を身に付けるための科目を配置します。

1) 教育・保育の本質や目的に関する科目として、「教育原理」「保育原理」「子ども学概論」「子ども家庭福祉」「保育者論」などの科目を配置します。

2) 教育・保育の対象の理解に関する科目として、「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「幼児理解（教育相談を含む）」「子どもの保健」「多様な子ども理解入門」などの科目を配置します。

3) 教育・保育の内容・方法・指導法に関する科目として、「幼児教育課程総論」「保育内容総論」「保育内容の理論と方法（健康）」「保育内容の理論と方法（人間関係）」「保育内容の理論と方法（環境）」「保育内容の理論と方法（言葉）」「保育内容の理論と方法（表現）」「子どもと遊び」「音楽実践演習（器楽）」などの科目を配置します。

4) 教育・保育現場での実践力を高める科目として、「インターンシップ」「保育インターンシップ」「教育実習」「保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」などの科目を配置します。

5) 小学校での教科内容や指導法に関する科目として、「教科内容論（国語）」「教科内容論（生活）」「初等算数科教育法」「初等音楽科教育法」「道德教育の理論と方法（小・中・養）」などの科目を配置します。

【教育方法】

1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。

2) 保育実践力の育成に向け、模擬保育室を利用した模擬保育の実施や視聴覚教材等を活用した保育実践の具体化を行い、学修方法の改善に努めます。

3) 最新の教育・保育現場の情報の把握、幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設等での保育者の役割等の理解を図るため、「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「や「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を中心に、本学の卒業生の現役保育者などを招聘し、講習会やセミナーを実施します。

4) 幼稚園・保育所等施設での実践的な学びを推進するため、2年次・3年次の教育保育実習に加え、1年次に「ハローナースリー」（保育所・認定こども園での体験）、2年次にインターンシップ（幼稚園等でのインターンシップ）、「保育インターンシップ」（保育所等でのインターンシップ）、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で「模擬授業」などを実施し、幼稚園・保育所等での教育・保育活動に積極的に参加し、実践的な学びを推進します。

【学修成果の評価方法】

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。

3) 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修の状況や課題追究の過程をパフォーマンス評価します。

4) 授業・保育・教育実習（保育所・認定こども園・施設・幼稚園）などの課題活動を通して、保育者として必要な資質・能力や適性を評価します。

5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記2)～4)をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学習方法の改善を図ります。

身につけるべき能力		領 域		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
①	多様な子どもをとりまく現代的課題に対応する力 多様な立場、考え方の存在を認め、強い意志と情熱および保育者としての使命感や責任感を持って、子どもの個々の内面的なニーズを共感的に理解し、子どもの学びと育ちに関わり、取り組むための「子ども理解」に関する専門性を獲得する。	教職一般領域	<div>特別支援教育 S/W</div> <div>教育心理学 S/W</div> <div>教職論 S/W</div>						<div>教育実習指導</div> —— 教育実習へ <div>特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(小中高養)</div> <div>教育制度論 S/W</div> <div>道徳教育の理論と方法(小・中・養) S/W</div> <div>教育課程総論(小・中・高・養) S/W</div> <div>生徒指導論(進路指導を含む)(小・中・高)</div> <div>教育方法・技術(情報通信技術の活用含む幼小中高養) S/W</div> <div>教育相談の理論と方法(小・中・高・養)</div>			
		初等教育領域	<div>教科内容論(生活)——初等生活科教育法——教科内容論(社会)——初等社会科教育法</div> <div>教科内容論(理科)——初等理科教育法</div> <div>教科内容論(音楽)——初等音楽科教育法——教科内容論(算数)——初等算数科教育法</div> <div>教科内容論(図画工作) S/W——初等図画工作科教育法</div> <div>教科内容論(国語)——初等国語科教育法——教科内容論(英語)——初等英語科教育法</div> <div>教科内容論(体育)——初等体育科教育法</div> <div>教科内容論(家庭)——初等家庭科教育法</div>									
		コース共通領域	<div>運動基礎——教育基礎演習Ⅰ——教育基礎演習Ⅱ——教育専門演習Ⅰ——教育専門演習Ⅱ——教育専門研究Ⅰ——教育専門研究Ⅱ</div> <div>音楽表現——教職研究Ⅰ——教職研究Ⅱ——卒業研究</div> <div>教職演習Ⅰ——教職演習Ⅱ——教職実践演習(教諭)へ</div>									
		幼児教育保育領域	<div>保育原理——子ども学概論——保育の心理学——幼児理解(教育相談を含む)——子育て支援</div> <div>社会的養護Ⅰ——社会的養護Ⅱ</div> <div>子ども家庭福祉——子どもの保健——子どもの健康と安全——子どもの食と栄養——保育方法論</div> <div>幼児教育課程総論——子ども家庭支援の心理学</div> <div>幼児と環境——保育内容の理論と方法(環境)——幼児と健康——保育内容の理論と方法(健康)——小児体育</div> <div>保育内容総論——幼児と言葉——保育内容の理論と方法(言葉)</div> <div>子どもと遊び——育内容の理論と方法(人間関係) S/W——幼児と人間関係——幼児と表現Ⅰ——保育内容の理論と方法(表現活動・音楽)——保育内容の理論と方法(表現活動・造形)</div> <div>音楽への扉——音楽実践演習(声楽)——音楽実践演習(器楽)——音楽実践演習(弾き歌い)</div> <div>乳児保育Ⅰ——乳児保育Ⅱ</div> <div>社会福祉——障害児保育——保育実習指導Ⅰ(施設)——保育実習Ⅰ(施設)へ</div> <div>幼保小中接続研究——保育実習指導Ⅰ(保育所)——保育実習Ⅰ(保育所)</div>									
②	幼児期の特性を踏まえ、一人一人のよりよい学びと協同的な学びを実現する専門的な知識と実践力を追求する力 多様な社会、施設・学校等において、子ども一人一人の興味・関心を引き出し、子どもの課題に応えるために、直接的体験を重視し、ICTの効果的な活用も取り入れながら実践的指導力の獲得をめざして協働で取り組み、粘り強い省察・研鑽の力を獲得する。	教職一般領域	<div>教育原論 S/W</div> <div>教育実習</div>									
		コース共通領域	<div>教育・ファシリテーション演習——教育基礎演習Ⅰ——教育基礎演習Ⅱ</div> <div>インターンシップⅠ——保育インターンシップ</div>									
		幼児教育保育領域	<div>多様な子ども理解入門——保育者論</div>									
③	変化する社会、保育施設等で活躍するための包括的な協働の力 急激に変化する環境の中で、すべての子どもの可能性を引き出すために、チームの一員として、多様な人々と協働で課題解決を図り、持続可能な解決を遂行する力や種々の活動を繋ぐ横断的なファシリテーション力を身につける。	教職一般領域	<div>教職実践演習(教諭)</div>									
		コース共通領域	<div>プログラミング教育Ⅰ</div>									
		幼児教育保育領域	<div>保育実習指導Ⅱ(保育所)——フィールドワーク演習(子ども支援)——保育実践演習</div> <div>保育実習Ⅱ(保育所)——フィールドワーク演習(子育て支援)</div> <div>保育実習指導Ⅲ(施設)——</div> <div>保育実習Ⅲ(施設)</div>									